

<目次>

● JFE スチールの高炉休止、労働者の雇用を守れ

■ 物価高騰を超える賃金・単価の引き上げを

▲ お知らせコーナー

☆ 5/21(日)公害・環境、健康、まちづくりフェスタ

☆ 5/28(日)ゆめごちちライブ「李政美ライブ」

☆ 6/3(土)良い映画を観る会「われ弱ければ」「母」

☆ 6/4(日)平和をきずく市民のつどい

☆ 6/8(木)本当のことしか言わないツアー 2023 —金平茂紀縦横無尽に語る—

☆ 6/28(日)ゆめシネマ「原発を止めた裁判長—そして原発をとめる農家たち—」

★ 編集後記

● JFE スチールの高炉休止、労働者の雇用を守れ

<JFE は、利益追求ではなく、労働者の雇用を守る社会的責任を果たすべき>

川崎市臨海部、扇島の JFE スチール東日本製鉄所京浜地区の高炉休止が、今年 9 月に迫っています。

高炉休止によって社員約 1200 人、取引先企業の従業員約 2000 人は深刻な影響を受けます。

こんな中で、「JFE スチール京浜の高炉休止に反対し職場を守る会」が 4 月 18 日、記者会見を開き、転勤に応じられない人や、事業縮小を迫られる関連企業への支援を訴えました。

鉄鋼職場新聞『熱風』No. 128 号が、職場の労働者の深刻な様子を伝えています。

「労働者は、昨年 12 月に転勤先を内示され、今年 2 月末までに転勤諾否の回答を迫られました。

その結果は、大部分の労働者が応諾し、一部の労働者が応じられないというものでした。J

FE スチールへの配属者や出向者を除いて、仮に 2 割の労働者が応じられないのだとすると、約 120 名が退職せざるを得ず、新たな仕事を探さなければなりません。

また、応諾した労働者の中には、相当数の単身赴任者がいます。

これから 15 年、20 年間もの単身赴任という人もおり、こんな非人間的な処遇は許されるものではありません。」

鉄鋼職場新聞『熱風』No. 128 号には、労働者（40 代）の怒りの声が載せてあります。

「20 年以上の単身赴任で、一家が離れ離れになる。

二重生活で、経済的負担も増えるだろう。

悩んだ末に、単身赴任を決めた。母親は、息子と家族を離れ離れにし、追い込むことに怒りがいっぱい。企業はなんて非情なんだろうと思う。」

〈川崎市の対応も遅すぎる〉

広島県の呉市にある日本製鉄も、高炉を休止し、2023年9月には完全閉鎖をします。

従業員は協力、関連会社を含めて約3千人です。

これに対し、呉市は広島労働局と協力し、閉鎖の3年前から特別相談窓口を設置し、6千件を超える相談を受け付けました。

一方、川崎市は「合同企業説明会」の開催を今年の7月以降3回実施するとしています。

これでは、あまりに遅すぎます。

今年3月の川崎市議会で日本共産党の宗田議員が、川崎市の雇用支援の早期実施を強く求めました。

しかし、川崎市の答弁は「合同面接会は、高炉休止等の時期や雇入れ企業の採用スケジュールを踏まえ、7月以降に3回開催することを決定している。」との答弁に終始しました。

本来、雇用責任はJFEにあるのです。川崎市は、JFEに大企業としての社会的責任を果たさせ、最終下請けまで仕事の見通しを示すように求めるべきです。

市民の暮らしを守る自治体としての責任はどこにいったのでしょうか。

■物価高騰を超える賃金・単価の引き上げを

4月29日の連合メーデーに招かれた岸田首相は壇上から「30年ぶりの賃上げ水準だ」と自画自賛しましたが、大企業の賃上げは物価高騰を超えることができず、多くの中小企業は、賃上げをしたくてもできない状況に追い込まれているのが実態です。大企業がためこんだ500兆円もの内部留保を、賃上げに還元することが必要です。

5月1日の神奈川労連メーデーに寄せて、県建設労働組合連合会長の菅野健一さんが「新かながわ」紙に寄稿した記事で、建設労働者の現状の報告をしていました。その一部を紹介します。

〈賃金・単価の引き上げを〉

建設労働者は、依然として現場での単価・賃金が削られ、未権利状態の仲間が多いのが実態です。

一方、この十数年で事業所に雇用される仲間が急増し、建設労働者の「労働者化」も

進んでいます。

その意味では、広く他産業で働く仲間のみなさんと要求と闘いを共有できる時代と
なってきました。

労働者の基本要件は「8時間労働」の要件ですが、2024年春からの残業時間の上限撤
廃の法改正で、建設業は労働基準法全面適用となります。

建設現場では、今ようやく土曜現場閉所などが進みつつあります。

私たちは、土曜日休んでも暮らしていける、そして、物価高騰に見合う、大幅な賃金
・単価の引き上げを要求しています。

公共工事設計労務単価は、11年連続引き上げられ今年も5.2%の引き上げです。

この引き上げを現場に波及させるべくがんばっています。

現に、上位業者に粘り強く交渉し、賃金・単価引き上げを勝ち取っている仲間が次
々出てきています。

建設業者も人出不足が深刻です。

今こそ、大幅賃上げのチャンスです。私たちは、賃上げの要求運動を強め、すべての
労働者との連帯を強めたいと思います。

県建設労働組合連合会会長 菅野健一

▲ お知らせコーナー

☆公害・環境、健康、まちづくりフェスタ

5/21(日)11時～15時

武蔵溝の口駅ペディスタルデッキ

主催：「公害・環境、健康、まちづくり」フェス実行委員会

連絡先 川崎公害病患者と家族の会内 044-211-0391

☆ゆめごこちライブ「李政美ライブ」

5/28(日)14時

かわさきゆめホール

一般：2500円、障がい者・学生以下：1000円

主催：ゆめホールライブ実行委員会

お問合せ 044-433-3003

hall@kawasakiyume.com

<https://onl.bz/r1vjvmc>

☆良い映画を観る会

①劇映画「母—小林多喜二の母の物語—」

6/3(土) 10時半

②「われ弱ければ—矢嶋楯子伝—」

14時

川崎市国際交流センター

前売り券一般：各 1,200 円

当日券一般：各 1500 円チラシ持参で当日券各 1,300 円

前売り券:有隣堂アトレ川崎店:044-200-6831

良い映画を観る会:070-8933-5703

☆平和をきづく市民のつどい

6/4(日)10時開会

川崎市平和館

参加費無料

記念公演：青井未帆

「戦争ではなく、平和の準備を」

主催「平和をきづく市民のつどい」実行委員会

090-1458-3102(柴田)

<https://onl.bz/HWJuLpe>

☆本当のことしか言わないツアー 2023

—金平茂紀縦横無尽に語る—

6/8(木)18:30

川崎市産業振興会館ホール

資料代 500 円

呼びかけ・主催：なんてん～神奈川 10 区の会～

申込み

nanten2017@gmail.com

090-1708-6635(五十嵐)

<https://onl.bz/EeZ6iht>

☆ゆめホールシネマ倶楽部

「原発を止めた裁判長—そして原発をとめる農家たち—」

6/25(日)①9時 ②12時 ③15時 ④18時

①②アフタートーク：小山田大和さん

③④アフタートーク：小原浩靖監督

一般：1000 円

障がい者：500 円

学生以下：200 円

当日：各 500 円増

<要予約>

予約・お問合せ

044-433-3003 ゆめホール
cinema@kawasakiyume.com
<https://onl.bz/12j5Ht3>

★ 編集後記

沖縄の本土復帰から 51 年を迎えました。伊藤三郎革新市政の誕生からは 52 年になります。

今年 40 回目を迎える「かわさき演劇まつり」は 1972 年に始まったので、51 年目となります。

市内のアマチュア劇団を中心に、行政の支援を受けながら公募の市民によって作り上げる舞台は、今でこそ各地で盛んに取り組まれています、とても先駆的な取り組みだったと言えます。

伊藤革新市政のなかで生まれ、今日まで続いている、市民にとって大変貴重な財産です。

第 40 回のかわさき演劇まつりは。ミヒャエル・エンデの『モモ』を上演します。奇しくも、エンデが「モモ」を出版したのが 1973 年、ちょうど 50 年前になります。

「タイムパフォーマンス (タイパ)」という言葉がもてはやされています。時間あたりの生産性ということです。

「タイパ」に対して真正面から疑問を投げかけたのが、エンデであり、「モモ」でした。

コロナ禍で疲弊した子どもたちに「タイパ」が追い打ちをかけます。今、学校では、「コミュニケーション能力」が重視されています。コミュニケーション能力が劣っていると、「コミュ症」等と言われてしまいます。

「モモ」の最大の武器は「聞く力」でした。どこかの首相や政党が掲げる聞くフリの「聞く力」とは違います。エンデの遺言が、今、輝きを増し、注目されています。(Y)